総合診療医認定講座

良質な慢性期医療がなければ、日本の医療は成り立たない

日本の少子高齢化はこれからも進むことが推計され、2025年には、高齢者人口のピークを迎えます。この人口構成の変化に対応するために、日本の医療・介護の提供体系は、患者・利用者、地域社会を主体としたシステムに大きく舵が切られました。

高齢者人口の増加が医療において意味するところは、急性期と慢性期の比率が逆転し、慢性期医療の重要性と必要性がより大きくなることです。慢性期医療の分野では、高度急性期医療からの引継ぎはもちろんのこと、本講座で履修していただくような幅広い知識と診療技術が求められています。また、その対象とは、高齢者に限らず、小児を含めた障害者、被災者なども含むすべての年齢層に及ぶことから、医師は、それぞれの専門領域のほかに、老年医学を含む様々な医学的知識を習得していかなければなりません。

そして慢性期医療が提供される場は、病院・在宅・介護保険施設、居住系施設など、地域全体が範囲です。医師には、総合的な診療能力の他に、薬剤師、看護師、介護福祉士、リハビリ療法士、管理栄養士等の医療チームをまとめていく能力も求められるでしょう。

本講座は慢性期医療に携わる医師はもちろんのこと、急性期医療から慢性期に引き継ぐ先生方にも必要とされる知識を得ることができる講座です。

日本慢性期医療協会では、慢性期医療のエキスパートとなる「総合診療医」を養成してまいります。

開催経過ならびに認定者（平成29年3月現在）

<table>
<thead>
<tr>
<th>No</th>
<th>開催地</th>
<th>Part</th>
<th>日程</th>
<th>会場</th>
<th>認定者数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>第1回</td>
<td>東京</td>
<td>PartⅠ</td>
<td>平成26年12月6・7日</td>
<td>東京研修センター</td>
<td>67</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>PartⅡ</td>
<td>平成27年1月17・18日</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>PartⅢ</td>
<td>平成27年2月14・15日</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>第2回</td>
<td>東京</td>
<td>PartⅠ</td>
<td>平成27年11月14・15日</td>
<td>東京研修センター</td>
<td>53</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>PartⅡ</td>
<td>平成27年12月12・13日</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>PartⅢ</td>
<td>平成28年1月16・17日</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>第3回</td>
<td>東京</td>
<td>PartⅠ</td>
<td>平成28年11月19・20日</td>
<td>東京研修センター</td>
<td>69</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>PartⅡ</td>
<td>平成28年12月10・11日</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>PartⅢ</td>
<td>平成29年1月14・15日</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>第4回</td>
<td>東京</td>
<td>PartⅠ</td>
<td>平成29年11月11・12日</td>
<td>東京研修センター</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>PartⅡ</td>
<td>平成29年12月9・10日</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>PartⅢ</td>
<td>平成30年1月13・14日</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>